

知的障害特別支援学校におけるダンス指導モデルの構築に向けて ～自己意識および他者との相互作用における変化に着目して～

研究目的

学校教育でのダンスは自己表現やコミュニケーションを促すための活動として期待されている。本研究では、ボディワーク、ジェスチャーゲーム、現代的なリズムのダンス、創作ダンスを取り入れた実践を通して、自己表現やコミュニケーションの力を育むダンス指導モデルの構築を行うことを目的とした。

研究方法

- 対象：中学部1～3年生 計6名
- 研究手法
 - 授業計画と実践
 - 気分の変化と振り返り
 - ビデオ分析

結果 1. 授業計画と実践 全6回の授業を実施

第1回	・ガイダンス ・現代的なリズムのダンス	・フェルデンクライス (呼吸、前屈、腰ひねり) ・ジェスチャーゲーム (説明) ・創作ダンス (曲決め)
第2回	・フェルデンクライス (呼吸、腰ひねり) ・ジェスチャーゲーム (一人で)	・現代的なリズムのダンス ・創作ダンス (曲決定・曲確認)
第3回	・フェルデンクライス (呼吸、腰ひねり) ・ジェスチャーゲーム (一人で、二人で)	・現代的なリズムのダンス ・創作ダンス (振り作り)
第4回	・フェルデンクライス (呼吸、腰ひねり) ・ジェスチャーゲーム (一人で、二人で)	・現代的なリズムのダンス ・創作ダンス (振り作り)
第5回	・フェルデンクライス (呼吸、腰ひねり) ・ジェスチャーゲーム (一人で、二人で)	・現代的なリズムのダンス ・創作ダンス (振り作り)
第6回	・フェルデンクライス (呼吸、腰ひねり) ・ジェスチャーゲーム (一人で、二人で)	・現代的なリズムのダンス ・創作ダンス (振り作り) ・ミニ発表会

2. 気分の変化と振り返り

授業前後での気分の変化および、授業後の身体的・心理的な振り返りをワークシートで確認。

主な気分とその理由

ヨロコビ 「良い運動になった」

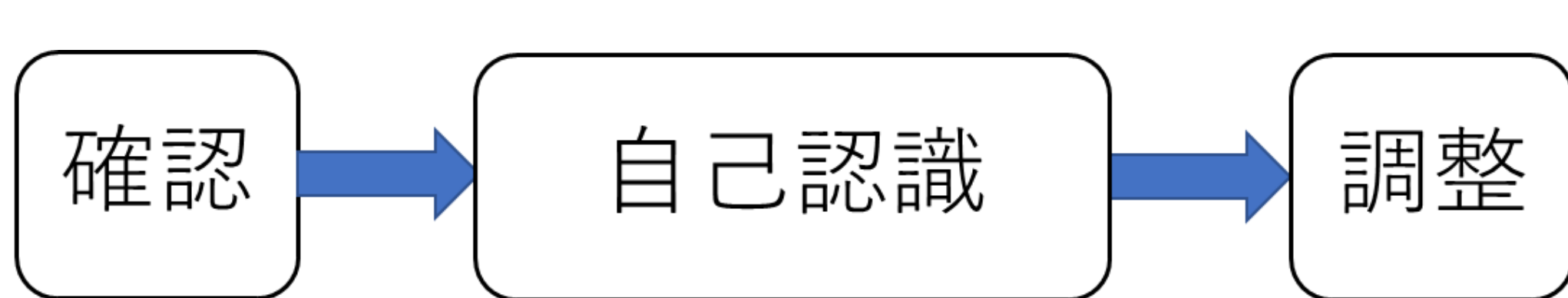
ムカムカ 「友だちが気になる」

ビビリ 「授業が不安」

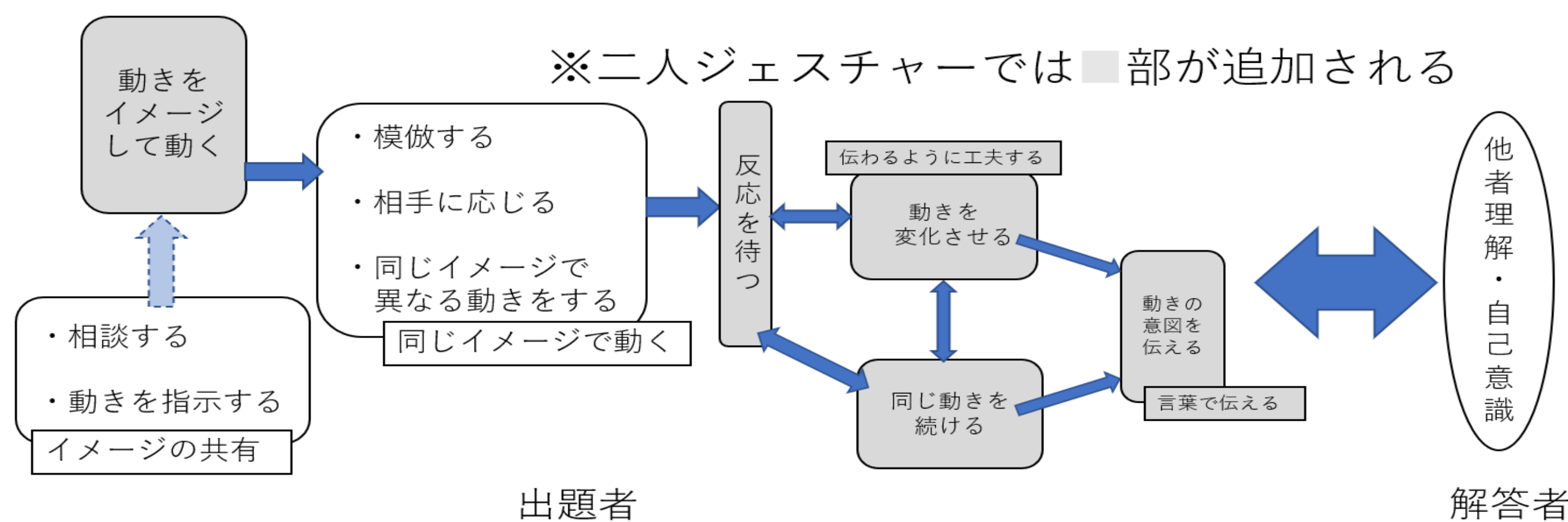
スッキリ 「体を動かしてすっきり」

本授業以外の出来事の影響も多く、回答がパターン化していたため、気分評価方法について課題が残った。

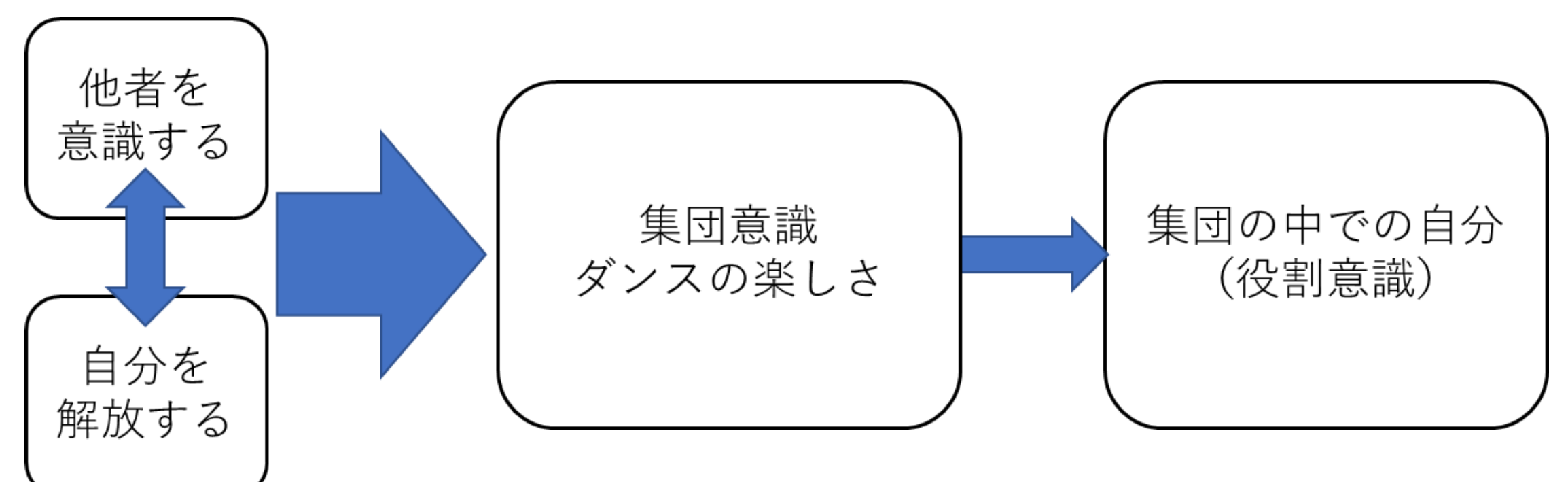
3. ビデオ分析 各活動の動画記録から生徒の具体的な行動を抽出し、変化の様子を図にまとめた。



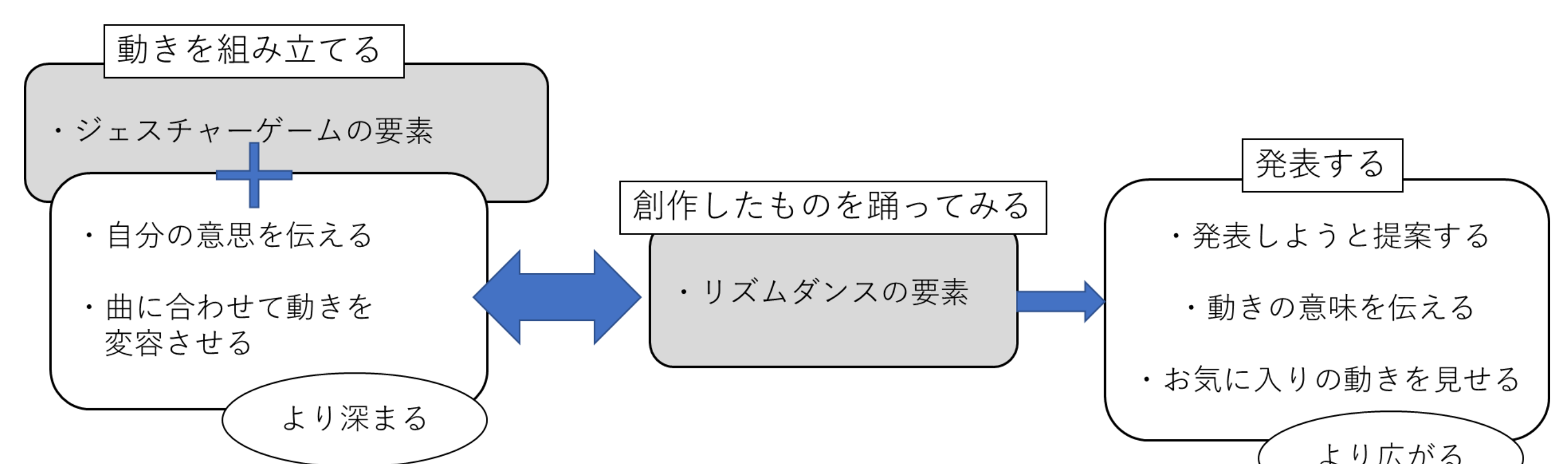
フェルデンクライスメソッド



ジェスチャーゲーム

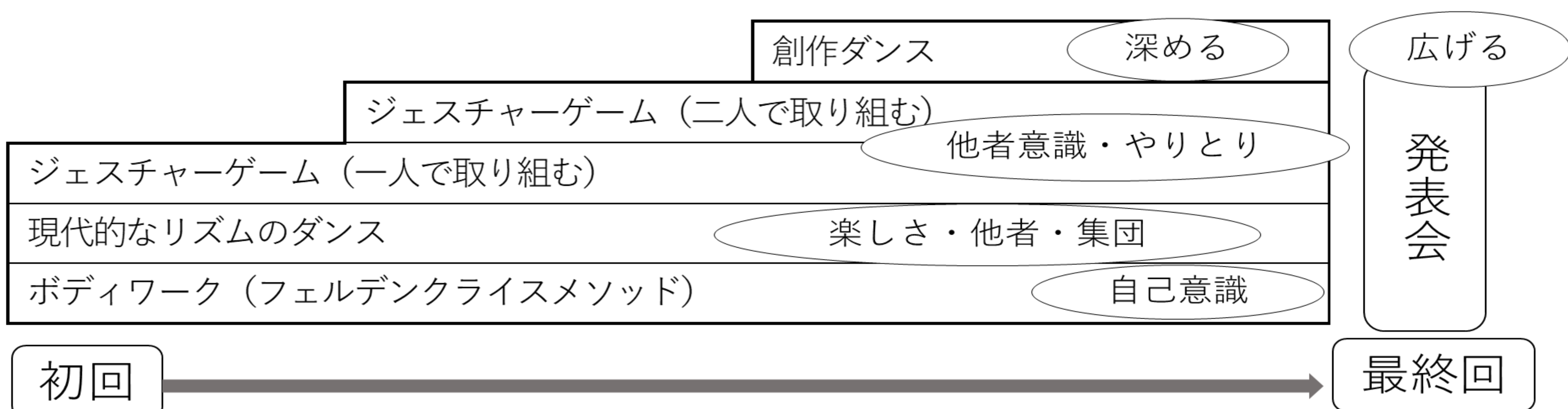


現代的なリズムのダンス



創作ダンス

考察 各活動（ボディワーク、現代的なリズムのダンス、ジェスチャーゲーム）の段階で培った力を総合的に発揮できるのが本研究で実施した創作ダンスであり、これらの段階的な取り組みが自己表現やコミュニケーションを促進させ深化させていくことがわかった。ボディワークの取り組みから始まり、自己に意識を向け、他者や集団を意識する段階を経て、他者と相互作用する取り組みに移行し、創作ダンスへと繋いでいく流れを示したものが以下の「知的障害特別支援学校におけるダンス指導モデル」である。



知的障害特別支援学校におけるダンス指導モデル

今後はこの指導モデルの検証ならびに様々な発達段階の子どもに適用できるように自己意識を高めるボディワークやジェスチャーゲームのような取り組みのバリエーションを増やしていくことが課題と考えられる。